

長谷川理事・副学長が南開大学創立100周年式典・世界大学学長フォーラムに出席

10月16日（水）及び17日（木）、長谷川晃理事・副学長が中国・天津市で行われた南開大学創立100周年式典・世界大学学長フォーラムに出席しました。

南開大学は、中国で最も長い歴史を誇る名門大学の一つであり、1993年には中国初の医学部を有する総合大学となり、現在は約30,000人の学生が在籍しています。本学と南開大学は2006年5月に学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書を締結して以降、南開大学と継続的に教育研究交流を推進しており、北大交流デーの開催、日本語教授法の指導や幹部の定期的な相互訪問等に加え、サマーインスティテュートを中心に積極的な学生交流を行って

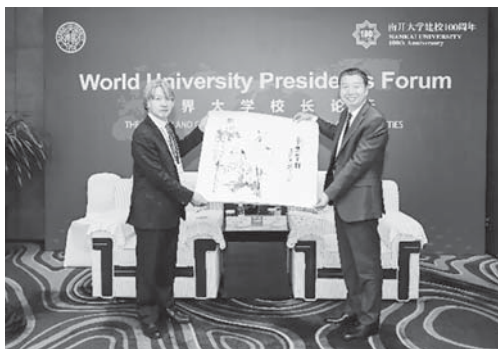
います。

世界大学学長フォーラムには、日本から本学、九州大学、立命館大学等5校の出席に加え、北京大学、韓国高麗大学、英国Oxford大学等、各国45機関以上の代表が出席しました。Xuetao Cao南開大学学長、Phil Baty Times Higher Educationチーフナレッジオフィサー、Anton Muscatelliグラスゴー大学長による基調講演に続き、各国の大学代表者によるパネルディスカッションが行われました。長谷川理事・副学長は「What is the Mission for World-Class Universities?（世界レベルの大学の責務について）」をテーマとしたパネルディスカッションに出席し、他のパネリスト達と、質の高い研究を社

会に適切に紹介・還元すること、スタッフも含めて高い国際性を持つことなどのグローバル大学の要件、使命について活発な議論を交わしました。一方、南開大学創立100周年式典には、中国教育部、中国科学院の代表者、天津市長をはじめ、各国大学長や来賓等関係者数千人が出席しました。長谷川理事・副学長は本学を代表して、これまでの協力と尽力への感謝を込めて、南開大学学長及び副学長にお祝いの意を伝えました。

今回の訪問を契機に、南開大学との交流がより一層前進することが期待されます。

（国際部国際連携課）



Lei Wang南開大学副学長（右）と記念撮影



世界学長フォーラムでのパネルディスカッション（右端が長谷川理事・副学長）



南開大学100周年記念式典